

(別紙5)

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 26-2-122
補助事業名 平成26年度福祉事業を行っている法人格を有さない団体に対して支援を行うことを本来の事業の目的とする補助事業
補助事業者名 社会福祉法人全国心身障害児福祉財団

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

当財団は1970年障害児の父母団体の全国組織16団体が協力して設立した社会福祉法人で、障害児に対する福祉、医療、療育訓練、各種相談事業を行う外、障害児の父母団体との協力の下、障害を持つ者と健常者との共生社会を目指して幅広い広報・啓発活動の実施を目的としている。

なお、定款では以下のように標榜している。「多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されることを目的とする。

(2) 実施内容

(<http://www.shougaiji-zaidan.or.jp/publics/index/34/>)

障害児に対する保健、福祉分野の公的サービスは、近年格段に充実されてきたが、自閉症やアスペルガー症候群を含むいわゆる発達障害児の的確な診断、療育上の相談、早期に発見して早期に支援を行う発達障害児やその家族への支援の仕組みはまだ緒に就いたばかりであり、公的な支援体制が整っていない。また、障害児を養育する両親(ひとり親の場合も少なくない)や兄弟などの家族も、障害児の生活支援に大きな役割を果たしているが、これらの家族に対する支援、家族同士の交流や助け合い・励ましあいの諸活動に対する公的支援は極めて限られている。このような中、各種親の会や各PTAが実施している諸活動については、JK Aの補助事業が多大な役割を果たしてきた。

本事業は、公的支援が乏しい分野に係る諸事業について、社会福祉法人全国心身障害児福祉財団並びに関連団体のうち法人格を有さない障害児の親の会及び特別支援教育にかかるPTA3団体が実施する事業である。

各団体が行っている内容は以下のとおりである。

1. 全国心身障害児福祉財団

(1) 障害児及び家族に対する専門診断・相談

幼児期から成人まで多様な障がい児(者)及びその親たちに対し、小児科・児童精神科・医師・心理・言語の専門スタッフを配置し個々の診断及び相談を行った。また、各種障害児を受入れる特別支援学校等に向け障害の重度・重複化・多様化に対応するための教育的指導を主に編集した養育指導書「重複障害教育実践ハンドブック」を作成し、教育関係者

(別紙5)

等に無料配布した。歯科治療に関しては、歯科医師を相談員に配置し、多動により一般歯科医院では受入拒否される等の問題を抱えた障害児(者)およびその関係者に対し、適切な解決方法を促した。

療育相談



療育指導書



(2) 障害児及び家族に対する個別訓練等

専門診断・療育において自閉症スペクトラム・ADHD・知的障害と診断された幼児から中学生までの個別での療育訓練が必要な子ども達に継続指導を行った。



(3) 障害児・者父母団体地域指導者養成研修会

2日間の日程で行い、1日目は競輪評論家による競輪の仕組み等の講義及び競輪観戦、2日目は福祉に関する講師を招き講演会の実施と各父母団体の意見交換を行った。26年度は京都府(平成27年2月20日～21日)、群馬県(平成27年2月27日～28日)、静岡県(平成27年3月6日～7日)の3会場で行った。

開催場所 京都府 京都向日町競輪場・ハートンホテル

群馬県 前橋競輪場・ホテルサンダーソン

静岡県 静岡競輪場・サンルート清水

講師 競輪講座 山野憲一

福祉講座 日本障害者シンクロナイズドスイミング：森田美千代

(別紙5)

(日本障害者シンクロナイズドスイミング協会会長)

障害者支援施策の動向：大西延英

(厚生労働省障害福祉課専門官)

障害のある人の震災対策：牧野善浴

(静岡市障害者協会会長)

競輪講座(前橋競輪場：山野憲一氏)

リーダー養成研修(静岡県：牧野善浴氏)



(4) 発達障害幼児に対する早期支援事業

発達障害幼児の早期発見・支援を行うため、専門家チームによる訪問支援活動を実施するとともに、保育士・教諭に対して専門性向上のための研修会を3地域(埼玉県・兵庫県・鹿児島県)で実施するとともに発達障害に関わる「子育て支援情報誌」を作成し、関係機関に無料配布した。

園内研修会

訪問支援活動



(5) 自閉症スペクトラム障害児に対する療育指導と親・関係者の支援

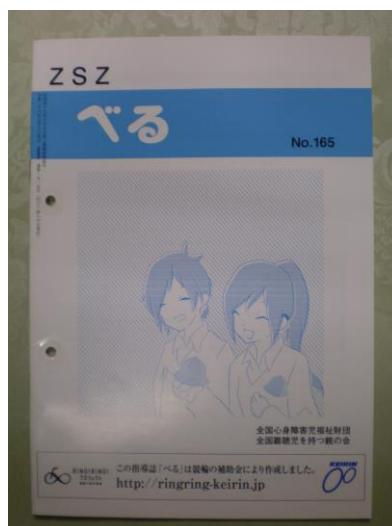
対象児の年齢・発達段階・特性を考慮したプログラムを作成し年間35回(平均3回/月)の指導日を3期に分け、個別および小集団で目標を立てて実施。年度末に発達検査を実施し親への面談やアンケートを実施した。



2. 全国難聴児を持つ親の会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

年間4回(補助対象3回)発行計画を作り、代表者研修会での講演会や各親の会で開催する研修会やキャンプの報告、作文コンクールなどで受賞した難聴児の作品や、その時々の難聴児にかかわる情報を、指導誌を通じ、難聴児を持つ保護者・難聴児教育に携わる教育者・医療関係・諸官庁に対し提供した。



(2) 心身障害児対策の無料検診

全国の難聴児の家族のための療育相談活動を相談員(主に難聴児を育てた親)が2ヶ所の会場にて毎月3回実施した。

(3) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針(1泊2日集団キャンプ)

難聴児教育に携わる専門家や指導員による指導により同じ障害を持つ子どもたちの集団生活の経験や社会性の向上を図るため一泊二日の集団キャンプを愛知県・奈良県・福島県の3ヶ所で実施した。保護者は、専門家から聴覚障害についての知識などを得る事が出来た。またほかの親や難聴スタッフからの体験談を聞く等、今後の方針についての情報提供の場も与えた。

(別紙5)



10月25日～26日 サンパーク犬山(愛知県)

(4)被災者支援のためのキャンプ

3年計画で実施してきた最終年度となり、震災時に対応された陸上自衛隊苦竹駐屯地を訪問、当時の写真やビデオの視聴の他、実際に震災を体験した難聴児(者)及び家族からの話を聞いた。



(5)難聴児の親のための研修会

難聴児を持つ親に対し、聴覚障害に関わる専門家や成人した聴覚障害者当事者による聴覚障害の正しい知識・理解を習得させ聴覚児の生活環境を整えるための研修会を全国4カ所(兵庫県2カ所・徳島県・熊本県)で実施した。



3. 全国聾学校PTA連合会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

ろう学校に通うろうあ児とその家族に対して療育技術の解説を内容とした指導誌を1種類、さまざまな情報や伝達を目的とした会報を3回発行して配布した。

指導誌

会報



(2) 心身障害児対策の無料検診(治療教育相談)

ろうあ児とその家族に対する療育指導を積極的に奨めるために治療教育相談を5回(北海道・東北・東海・近畿・九州地区)実施した。



(3) 聴覚障害生徒スポーツ振興

ろうあ児の体力向上を通して意欲的な人間を育てるために、陸上競技大会9月26日～28日北上総合運動公園陸上競技場、卓球大会11月7日～9日滋賀県立体育館の日程で実施した。

陸上競技大会

卓球大会

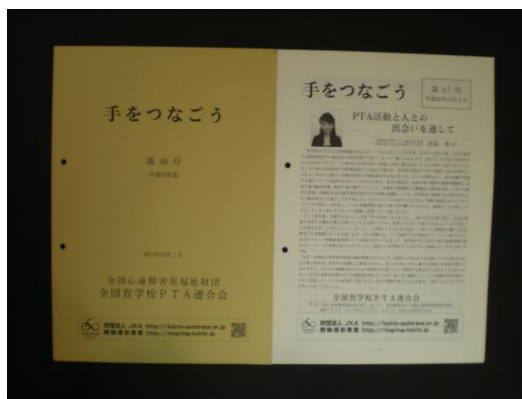


(別紙5)

4. 全国盲学校PTA連合会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

年1回行われる年度総会・理事会・研修会報告、支援学校幼児児童生徒在籍状況、あん摩マッサージ指圧師・はり師・灸師国家試験合格結果、各地区PTA活動報告、野球大会・弁論大会の結果報告、卒業生の活躍、視覚障害に関する法律等の紹介等を掲載した指導誌2冊を発行し配布した。また、盲者用に指導誌をCD化した物も配布した。



(2) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針(1泊2日集団キャンプ)

日頃社会から隔離された状況にある盲学校へ通う盲児とその家族に対し、将来への生きる指針を獲得させるために一泊二日の集団キャンプを実施する予定でいたが台風の影響により中止となった。

(3) 視覚障害生徒スポーツ振興

盲児の体力向上を通して意欲的な人間を育てるために、野球大会を神奈川県平塚市で8月20日～22の日程で実施した。



5. 全国病弱虚弱教育学校PTA連合会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

病弱特別支援学校に通う病弱虚弱児とその家族に対して国の施策や病弱教育の研究の様子等を内容とした指導誌を発行して配布した。

(別紙5)



(2) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針(1泊2日集団キャンプ)

日頃、病院で生活している病弱虚弱児とその家族に対し、病院とは違う環境の中での集団生活をし、将来の生活に役立つ実践的なスキル獲得のために一泊二日の集団キャンプを4回実施した。



(3) 社会復帰のための社会適応講座の開催

学校卒業を目前にした病弱虚弱児に対して社会適応のための実践的な指導講座を6回実施した。



2 予想される事業実施効果

1. 全国心身障害児福祉財団

(1) 障害児及び家族に対する専門療育診断・相談

専門家とのマンツーマンによる相談により、障害児者やその家族・関係者に専門家からのアドバイスを提供することにより、今後の家庭生活や社会生活に向けて大きな支えとなっていくことが期待される。また、療育指導書を発行することで、障害児療育についての全国各地の障害児教育関係者に対する知識の向上に役立と期待される。

(2) 障害児及び家族に対する治療訓練

個々の発達段階と特性に応じた指導を行っていることにより、子どもの発達を促すとともに、適応力を伸ばしていくことが期待される。また、親が毎回子どもの指導場面に参加することで、子どもへの対応の仕方を学んでいき、関係機関の担当者へ報告し連携を図ることが期待できる。

(3) 障害児・者父母団体地域指導者養成研修

競輪場関係者も事業遂行に御協力いただく事で、競輪場開催日には無い時の施設の利用促進など、今後の父母団体活動についても有益な研修会となる。また、普段はあまり交流の無い団体(肢体不自由と知的等)同士が、互いの意見を交換しあう事でお互いを理解することができたと予想される。

(4) 発達障害幼児に対する早期支援事業

専門指導員に適切な指導助言をいただいたことにより、保育士から保護者へ、そして園全体で発達障害のある子どもに対する支援を組織的にできると予想され、今後のこどもの行動の共通理解と一貫性のある支援へと結びつくことが期待される。また、子育て支援情報誌を配布することにより、これからの子育てに対する実践教育に結びつくことが期待される。

(5) 自閉症スペクトラム障害児に対する療育指導と親・関係者の支援

発達段階に合わせた働きかけを適切に行うことで、考える力を育て、自閉症スペクトラム児の苦手な社会性の獲得を進めていくことが期待されるとともに、親や関係機関への報告を常にすることにより子どもの理解・対応についての参考となると期待される。

2. 全国難聴児を持つ親の会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

難聴児及び家族にとって、聴覚障害に関する情報や、地域での活動を有し積極的に参加する事を促していくと予想される。

(2) 心身障害児対策の無料検診

難聴児及びその家族が、難聴児を抱えて子育て等で悩んでいる親が、難聴に関しての知識をもった専門家や、子育てを終えた親へ相談することにより、家族の心の安定を与え子どもの教育や発達に良い影響を与えることが期待される。

(3) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針(1泊2日集団キャンプ)

同じ障害を持った者同士が2日間という集団生活の中で事業終了後もお互いを支援しあえる環境をつくることにより将来への生きる指針を獲得することが期待できる。

(4) 被災者支援のためのキャンプ

参加者が、被災地での生の声を聴くことにより、震災に対する意識と心構えを獲得する

(別紙5)

ことが期待される。

(5) 難聴児の親のための研修会

保護者のみならず、保護者を通じて学校の教員にも参加を呼び掛けたことにより、難聴児に対する共通した考え方で取り組められ、今後の難聴児の成長に大きな変化が現れる事が期待される。

3. 全国聾学校PTA連合会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

全国陸上・卓球競技大会での各地区会員の子弟の活躍状況や聾学校PTAの活動状況など、さまざまな情報を紙ベースの発信で会員やその周りの人々が共に得ることにより話題となっていくことが期待される。

(2) 心身障害児対策の無料検診(治療教育相談)

ろうあ児とその家族に最新の治療教育水準を獲得したことで、社会参加への明るい希望と自信を持つことが予想される。また、各地域で開催されることにより地区内単位のPTAの協力体制が進み結びつきが深められると期待される。

(3) 聴覚障害生徒スポーツ振興

毎年地域を変え開催する地域の関係団体や住民に聴覚障害者の全国的なスポーツ大会の存在を広く周知でき、今後の障害者支援や福祉事業の推進に大きなプラスにつながると期待される。

4. 全国盲学校PTA連合会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

盲学校へ通う盲児とその家族が指導誌を通して全国にある盲学校・視覚特別支援学校や各地域PTAの活躍の様子、あん摩・針灸等の国家試験結果、官公庁への要望等さまざまな情報を紙ベースの発信やCDでの音声での発信により会員同士の情報共有と関係機関への理解啓発が期待される。

(2) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針(1泊2日集団キャンプ)

将来への生きる指針を獲得させることで、地域社会に積極的に溶け込み、しいては明るい人生を歩んでいくことが期待できる。

(3) 視覚障害生徒スポーツ振興

視覚障害者がスポーツを行う機会が限られている中で、全国規模のスポーツ大会として開催することにより予選を勝ち抜き決勝を目標とすることは盲学校生徒にとって体力向上を通して意欲的な人間形成に寄与することだけでなく、盲児の社会参加の可能性を拡大していくことが予想される。

また、一般者の見学により視覚障害者スポーツの理解啓発が予想される。

(別紙5)

5. 全国病弱虚弱教育学校PTA連合会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

病弱者が発表する機会があり、その発言を情報誌に記載することができ病弱者の励みに結びついたり期待される。また、各地域PTAの活動情報を記載することにより保護者にとって今後の活動指針につながると予想される。

(2) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針(1泊2日集団キャンプ)

医療の管理下におかれている病弱者は様々な生活規制を受けており、集団活動や経験が不足であり、本事業を行うことにより普段病院ではできない活動や家族などとの行動を共にすることで、心理的な安定・積極性・社会性の涵養、セルフケアへの向上を図ることが期待できる。

(3) 社会復帰のための社会適応講座の開催

本事業で、学校では取り組めない内容を体験する事や、先輩の活動する姿等を体験することで、自己の将来像について考える事が予想される。

3 本事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

[\(http://www.shougaiji-zaidan.or.jp/publics/index/34/\)](http://www.shougaiji-zaidan.or.jp/publics/index/34/)

ア. (福) 全国心身障害児福祉財団

新重複障害教育実践ハンドブック	A4判	274頁	3,000部
子育て支援情報誌No.10	A4判	24頁	4,000部
子育て支援情報誌No.11	A4判	24頁	4,000部
子育て支援情報誌No.12	A4判	24頁	4,000部

イ. 全国難聴児を持つ親の会

べるNo.165	B5判	36頁	4,000部
べるNo.166	B5判	32頁	4,000部
べるNo.167	B5判	28頁	4,000部

ウ. 全国聾学校PTA連合会

会報No.219	B5判	10頁	9,000部
会報No.220	B5判	10頁	9,000部
会報No.221	B5判	10頁	9,000部
道標No.40	B5判	44頁	9,000部
全国聾学校陸上競技大会要綱	A4判	116頁	1,000部
全国聾学校陸上競技大会ポスター	A2判	300枚	
全国聾学校卓球大会要綱	A4判	60頁	700部
全国聾学校卓球大会ポスター	B2判	300枚	

エ. 全国盲学校PTA連合会

手をつなごうNo.44	A4判	26頁	4,000部
手をつなごうNo.45	A4判	10頁	4,000部

(別紙5)

全国盲学校野球大会要綱 A4判 60頁 600部

全国盲学校野球大会ポスター A1判 500枚

才. 全国病弱虚弱教育学校PTA連合会

会報No.35 A4判 16頁 3,500部

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名 : 社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団
(ゼンコクシンシンショウガイジフクシザイダン)

住 所 : 〒170-0005
東京都豊島区南大塚3丁目43-11

代 表 者 : 理事長 伍藤 忠春(ゴトウ タダハル)

担 当 部 署 : 事務局(ジムキョク)

担 当 者 名 : 主幹 町野 忠史(マチノ タダシ)

電 話 番 号 : 03-5927-1284

F A X : 03-5927-1281

E - m a i l : gyoumubu@shougaiji-zaidan.or.jp

U R L : <http://www.shougaiji-zaidan.or.jp/>